

「高度人材に関する現地発情報」（大連）

2021年1月
大連事務所

大連市2020年秋季人材採用及び大学・専門学校卒業生就職フェア

1. 概要：

- 同フェアは毎年春と秋に開催され、現地の中国企業や外資系企業を中心に開催している。海外からの出展は受け付けていない。例年、春の開催規模が大きい。2020年は新型コロナウイルスの影響により、春の就職フェアを中止。
- 大学と専門学校の新卒ならびに既卒を主な対象にしている。地元の人材が主な求職者として参加しているため、企業がそれらの人材を採用する際に利用する主な採用ルートの一つである。ただし、新卒の学生の利用度は大学内の就職フェアより低い。
- 主催者は大連市人力資源・社会保障局という人材事業を管轄する政府部門である。

2. 基本情報（イベント概要）

- イベント名：大連市2020年秋季人材採用及び大学・専門学校卒業生就職フェア
- ウェブサイト：なし
- 開催日・場所：2020年11月14日、世界博覧広場（大連市）
- 主催者：大連市人力資源・社会保障局
- 規模：出展企業数527社、来場者数2万2,000人



会場入場登録の様子

（写真：卓聯教育科技（大連）による撮影、以下同様）

<入場口>

来場者向けの検温とセキュリティ検査が行われていた。週末の開催ということもあり、カジュアルな装いの来場者が目立った。



検温、セキュリティ検査の様子



企業のブースを探す来場者達

<出展企業>

入口に出展企業リストと会場図が書かれた看板が設置されていた。主催者の発表によると、製造業の出展が最も多く、全体の25.7%を占めた。次いで多いのは、IT、卸売・小売業、教育など。

<大手外資系IT企業のブース>

大連には日本語人材が多く、対日アウトソーシング業務を行う企業が集積している。人材採用ニーズが旺盛な分野であり、日系企業のほか、Genpactなど欧米企業の出展も多い。一方で、BPO業務では単純作業が多いため、有名大学の卒業生にはBPO業務を敬遠する傾向もみられる。



企業と求職者の面談の様子



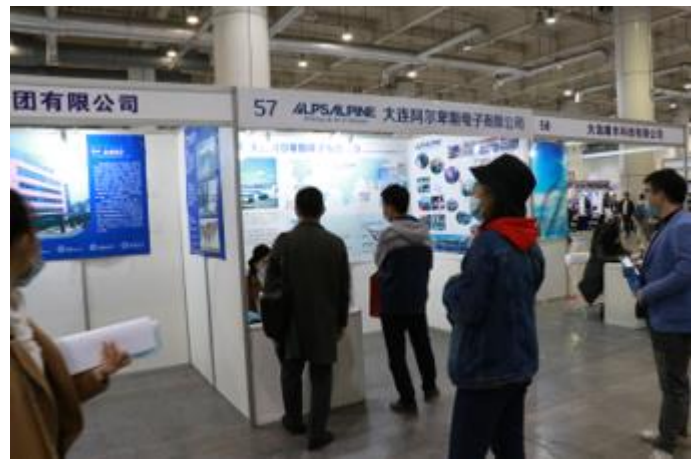
求職者の行列の様子

＜教育関連の大手中国企業のブース＞

新型コロナウイルスの発生後、オンライン教育の発展スピードが著しい。今後の発展が見込まれる業界とみられており、同フェアでは教育業界への就職を希望する求職者の増加が目立った。

＜大連進出日系企業のブース＞

大連には製造関連の日系企業が集積しており、管理職や現場の従業員を募集する日系企業が多数出展。



求職者による問い合わせの様子

＜その他＞

- 出展企業が設けた採用ポストは約1万8,000で、うち、院卒、学部卒、短大卒を条件とするポストは全体の約84%を占めた。主催者によると、高学歴の人材を求める傾向は例年に比べ高まっているという。
- 求職者に人気のある職種は、福利厚生がよく安定している大手国有企業、高い給与水準が期待できる欧米系IT企業、今後の発展が見込まれる教育関連企業などである。

高度人材グループインタビュー

司会者：
楊海浜氏

卓聯教育科技（大連）有限公司（WORKS PLAZA China）
研修事業部 総経理



参加者：

大連東軟信息学院4年生
(2021年7月卒業)

- ・コンピューター科学専攻：13人
- ・ソフトウェア開発専攻：14人
- ・IoT専攻：8人

インタビュー実施日・場所：

2020年12月8日、大連東軟信息学院



高度人材グループインタビューの様子

Q1

就職の準備状況はいかがですか。就職に向けての具体的な取り組み、目標はありますか。



A1



学生A（IoT専攻）：

まだ準備中ですが、準備は万全ではありません。Java開発の仕事を探す予定です。



学生B（コンピューター科学専攻）：

今、ITスキル向上のための研修に参加しており、スキルアップしながら就職に向けて準備中です。Javaフルスタックエンジニアの仕事を探しています。

Q2

卒業して3～5年後にはどのような人材になりたいですか。キャリア設計について考えていますか。



A2

学生C（ソフトウェア開発専攻）：

3～5年後には、小人数のチームをリードし、開発を行ったり、研究開発ができるようになりたいです。また技術面においても新人の頃とは異なり、一層高いスキルを身につけることを目指します。

学生D（IoT専攻）：

3～5年後にはシニアエンジニア、10年以内に技術ディレクターになることを目指します。また、3～5年以内に大手のITベンダーで働くことができればさらに理想的です。

Q3

周りの先輩の中にアメリカや日本など海外で就職した人がいますか。日本で働くとしたら、まずどのような状況が思い浮かびますか。海外での就職を目指す場合、どのように採用情報を収集しますか。海外で仕事するにあたって何が一番心配ですか。



A3

学生E（IoT専攻）：

自分の周りには海外で働いている先輩はいないです。海外で仕事する場合、まず浮かんでくるのは寂しさです。求人サイトや海外求職サイトから情報を得ます。一番心配することは、言葉が通じず、現地の文化や生活にすぐに慣れないことです。

楊学生F（ソフトウェア開発専攻）：

知り合いの友人が日本に留学していますが、物価が高くアルバイトしながら生活費を稼がないといけないと聞いています。日本で仕事する場合は、留学よりは状況がよいでしょう。日本人は礼儀正しいと聞いていますので、日本に行ったら我々も日本の習慣に慣れることが重要だと考えています。現地の文化や生活習慣を積極的に学んでいけば、すぐに慣れるものと信じています。一番心配していることは、物価が高いことと、日本語ができないことで生活が不便になることです。



有識者インタビュー



楊海浜氏

卓聯教育科技（大連）有限公司（WORKS PLAZA China）
研修事業部 総経理

- 大連東軟信息学院に長年勤めた経験があり、勤務中は大学生のキャリア指導、IT実践講義などを担当。中国教育部とIBM社共同出版による教材「Java EEエンタプライズ向け応用と開発」の編者の一人である。
- インタビュー実施日・場所：2020年12月8日、大連東軟信息学院

Q1 中国の高度人材のキャリア形成の特徴について

A1

卒業前に明確かつ合理的にキャリア設計を行う学生は少ないです。卒業生のキャリア形成の一つの顕著な特徴は「先輩を模倣」することです。即ち、多くの学生達は、会社の先輩、上司、技術者をキャリア設計の目標にしており、模倣しようとしています。その背景には、就職前に自分の目標が明確でないこと、関連の業界に対する理解が不足していること、同じ業界に従事している人たちのキャリア形成についての情報が不足していることなどの問題があります。就職後一定期間を経て、徐々に自分が目指すキャリア形成の方向性が分かるようになり、その方向に向かって努力する人が大半です。

Q2 海外での勤務がキャリアに与える影響について

A2

海外での勤務は、異文化への理解、外国語能力の向上、ビジネスマナーの習得、技術スキルの向上などの面でプラスの影響を与えることは間違いないと思います。海外勤務を通じて、個人のスキルアップ及びキャリアアップが期待できます。

Q3 中国の高度人材（大学生）の一般的なキャリア形成について

A3

- 私はIT分野が専門のため、IT分野の大学生のキャリア発展の現状について紹介します。大学でITを専攻した学生、またはITを専攻以外で、よりよい就職機会や高い給与水準を目指してIT業界に就職している人たちをみると、キャリアの形成の状況は比較的良好といえます。これは中国の近年のIT業界の発展が著しく、就職ポストが多いうえ、高給を払っても優秀な人材を採用したい企業のニーズが高いためです。IT業界の給与水準は一般的に他の業界より高いです。
- 就職して2～3年間でプロジェクトの経験や開発の経験を蓄積し、技術力を高めた後に転職してもチャンスは多いです。約5年後にはプロジェクトリーダーになれる人が多いです。外国語スキルやコミュニケーションスキル、技術スキルが高い人は、大手ベンチャーでの就職機会もあります。一定のノウハウやリソースを持っている人は、起業を選択するケースも少なくないです。
- 一般的に3年前後がキャリア形成の節目となります。3年間IT業界での勤務を続けた人は、同業界で引き続き続けていく傾向がありますが、3年間続けられなかった人は、同業界を離れるパターンが多いです。